

研究紀要

くらしをひらく子ども

——一人ひとりの思いや考えが生きるために——

1993

島根大学教育学部附属小学校

自力でくらしを切りひらく

— 序にかえて —

今、小学校教育も新しく生まれ変わろうとしています。そろそろ、試みや模索の段階から、より確かな実践が実現し、定着する方向に向わなければなりません。一般的には、「新しい学力観」が、各教師によって个性的に消化し切れて、実践の中で具体的なかたちや方策としてメドが立って来たかどうか、問われていると言えるでしょう。

本校でも、「新しい学力観」を下敷きにしながら、「くらしをひらく子ども」をテーマに、これからの教育実践の具体化を進めています。これから先、どんな社会（条件下）にあっても、自分のくらしを自分の力で切りひらいていける力の育成をめざしているわけです。授業の場でも、一人ひとりが自分の個性や可能性を生かし、主体的に自己の実現を図ろうとする点に主眼が置かれていると言えます。このテーマの実現に向けて、学習のプロセスが明確にされたり、望ましい子どもの学習意識のあり方が検討されたりしているところです。

私は、この4月、修学旅行に参加する機会を得ました。修学旅行も教室外での学習ですから、自分の力で、自分の旅行をどうつくっていくのかということが大切になってきます。まず、旅行の見学先を自分たちでグループ別に計画するかたちをとられました。そして、私は、私なりに、事前・事後の3回の機会を通して、子どもに何を求めていくかを検討してみました。

旅行の準備に入る段階（結団時）では、どんなかたちで、子どもたちの関心や意欲・態度を喚起すべきかという問いに迫られました。そこで、「自分が見学地の諸事象をどこまで見るができるか」、「何時もと違う場所や条件下で、どんな自分のくらしができるか」について関心を向け、自力による旅行づくりの意欲や態度を持たせるように問いかけてみました。

実施の段階（出発前）では、準備してきたことをふまえ、自動車の「アクセルとブレーキ」に例えて、自分の楽しくて意義ある旅行づくりのために、行動と頭脳の勢いを促すとともに、どこかに慎重さや自己コントロールの作用が必要であることについて考えさせようとしてみました。

終わった段階（帰校時）では、旅行を通して得たもの、得られなかったもの、学び方やくらし方の全てにわたる収支決算を「お金ではない修学旅行の出納簿」という表現で、まとめてみるようにはたらきかけてみました。

これらの子どもへの要求は、決して一方的な強制のかたちではなく、また、各々の子どもに応じて消化され得るものである必要があります。つまり、子どもたちの学習のめあてづくりや自己評価、その後の自分のくらしを切りひらいていく方向と方法に寄与するかたちをとるものである必要があると思われます。

このような私なりの試みや思いが、何を生み出したか、学習の成果にどんな違いをもたらしたかを、つぶさに検証することはできませんが、言わば、貸し切りのバスによって、お決まりのコースを、引率されて、見て回る旅行とは少しは違うものになったことは確かです。

さて、日常の授業を含む学校生活全体に、自分を試す場がふんだんにあって、自力で自分をつくり、自分を切りひらいていく。そして、結果について、自分なりの反省があり納得がある。そういう教育のかたちを、どうつくっていけばよいのでしょうか。叡知を出し合って、かためたいものです。

平成5年6月24日

学校長 有馬毅一郎

目 次

序にかえて	学校長 有馬 毅一郎	
I 暮らしをひらく子ども		1
- 一人ひとりの思いや考えが生きるために -		
II 教科における授業の構想と実践		
国語科 子どもが「読み」をつくる授業		5
- 思いを「ことば」で表現するために -		
社会科 子どもが問題意識を発展させていく授業		27
- 子どもの見方・考え方をどう広め、どう深めていくか -		
算数科 子どもが数理を追求していく授業		35
理科 子どもが自ら自然を探究していく授業		55
- 子どもの見方や考え方をさぐる -		
生活科 子どものくらしが広がる生活科の授業		69
- 一人ひとりの思いや願いが表出できる体験活動を求めて -		
音楽科 子どもが感じたことを豊かに表現できる授業		79
- 一人ひとりが心を開いて表現するために -		
図工科 個性豊かな表現を生み出す授業		91
- 思いをふくらませる -		
家庭科 くらしを見直し、よりよいくらしをつくり出す授業		105
体育科 子どもがイメージをふくらませ、表現する体育学習		113
- 子どもがイメージを動きにしていけるために -		
特殊教育 子どもたちが楽しむ学校生活		133
- 一人ひとりがその子らしさを発揮できる環境づくり -		
保健 子どものくらしをひらく保健指導		159
- 子どもの思いを大切に健康生活の実践力を育むために -		
おわりに	副校長 春日 一男	
研究同人		

一人ひとりの思いや考えが生きるために

— おわりに —

新教育課程が実施に移されて2年目を迎えた。本校の今年度の研究は、研究主題「くらしをひろく子ども」、サブテーマ「一人ひとりの思いや考えが生きるために」のもとに第1年次の研究に取り組んだところである。

子どもが生き生きと学習する場合、学習のめあてが分かり、課題を自分のものとしてとらえると、子どもたちの思考力は動きはじめる。自由に考える場・活動する場や時間を保障すれば、自ら計画を立て、方策を選び、問題解決に取り組んでいく。その過程で、自己の能力を最大限に発揮し、充実感や成就感が味わえるのである。教育は、「教えること」と「育てること」のバランスが大切である。できれば、後者の「育てること」の方に重心が移って、バランスがとれるのが一番よいと思う。毎日毎日の授業実践は、もちろん大切である。それにもまして、先を見通した教育は、その上に大切なものであることをひしひしと感ずる今日この頃である。

私の教え子のA君の母親から十数年ぶりに一通の封書の便りが届いた。A君が直接書いて送ってくれたものでなくて少し残念であったが、その手紙には次のように書かれていた。

(前略) 小学校1年生の時から、ずっと先生の担任で気の弱い病気がちだった子。そして4年生の夏の林間学校の大山合宿では、大変な喘息発作をおこし、夜中に薬を持って、夫が大山のS荘まで車を走らせたことも忘れられません。また、重い病気でN病院に入院したりと、Aと病気とはいつも仲良しで、こんな子が大人になったら、どうなるかと、とても心を痛めておりました。

Aが変わったと親の目に見えてきたのは大学進学の間からでした。そして美大に入ってから、全くといっていいほど変わってしまいました。短大でしたので、デザインの専門学校に、さらに2年間と私は思っておりましたが、それもせずに、ヨーロッパを巡ってくると言って、お金づくりのために広島のM社に入って働いております。そして外国での生活(ドイツをはじめ、北欧5ヶ国を旅して5ヶ月の旅をして、ギリシャから帰ってきました)。今は、ただ、はらはらしながら子ども背中ばかり見えています。

小学校の時は、とても弱い子で、お休みも多く、自然と勉強も遅れがちでしたが、勉強の距離は長いことから、短距離ランナーになるか、長距離ランナーになるか、スタートラインであくせくしても仕方がないと、学校と縁がなくなった今頃になってようやく理解できました。(後略)

「くらしをひろく子ども」を育てる実践にあたって、授業においては、子どもが『自分の思いや考えを表出するための授業の構想』に重点を置き、子どもと追求対象との出会わせ方、自己を出しきることのできる環境づくり、子どもが思いや考えを表出するための教師の支援のあり方などの観点から深めていこうとしたものである。また、子どものくらしが、勢いのあるものになるような学校生活となっているかという観点から、教育課程の見直しを行うことも必要である。

このたび、このような新テーマの課題意識のもとに第1年次の実践のあとをまとめてみた。諸賢のご批判、ご叱正を乞う次第である。

平成5年6月24日

副校長 春日 一 男

研究同人

	学校長 有馬 毅一郎 教頭 瀧野 一夫	副校長 春日 一男 研修部長 岡田 正樹
国語	岡利道 (4年1組) 昌子佳広 (1・2年複式)	瀧哲朗 (1年2組)
社会	赤木直行 (2年1組) 吉崎 朗 (5年2組)	奥村忠孝 (3・4年複式)
算数	山崎敦史 (5・6年複式) 川上宜久 (3年1組)	原 一夫 (6年1組)
理科	和泉浩行 (内留中) 原 啓一朗 (3年2組)	高橋泰道 (6年2組) 仙田みづえ (講師)
生活	赤木直行 (2年1組) 中村治子 (2年2組) 昌子佳広 (1・2年複式)	酒井謙司 (1年1組) 瀧哲朗 (1年2組)
音楽	岡田正樹 (音楽専科) 山田祐子 (講師)	中村治子 (2年2組)
図工	瀧野一夫 (図工専科)	陶山弘志 (図工専科)
家庭	黒崎淑子 (5年1組)	
体育	中筋幸夫 (体育専科) 若槻尚美 (4年2組)	酒井謙司 (1年1組)
特殊	中路博孝 (特殊専科) 奈良井 正 (特殊3組)	西島 博 (特殊2組) 貴谷千里 (特殊1組)
保健	原田睦子	
前年同人	黒田章義 高塚 寛 今井京子	

この研究紀要に収録されている授業記録は、次のような約束にもとづいて記載されています。

┌ 女兒を表す (男児はなし)

60 黒崎 直列つなぎはね、線がね、1すじになっていて、並列つなぎが2すじになっている。

└ その時間の発言の通し番号を表す

平成5年6月10日 印刷

平成5年6月10日 発行

発行所 島根大学教育学部附属小学校
〒690 松江市大輪町416の4 (TEL21-2471)

印刷所 黒潮社
松江市向島町182の3 (TEL21-3409)
